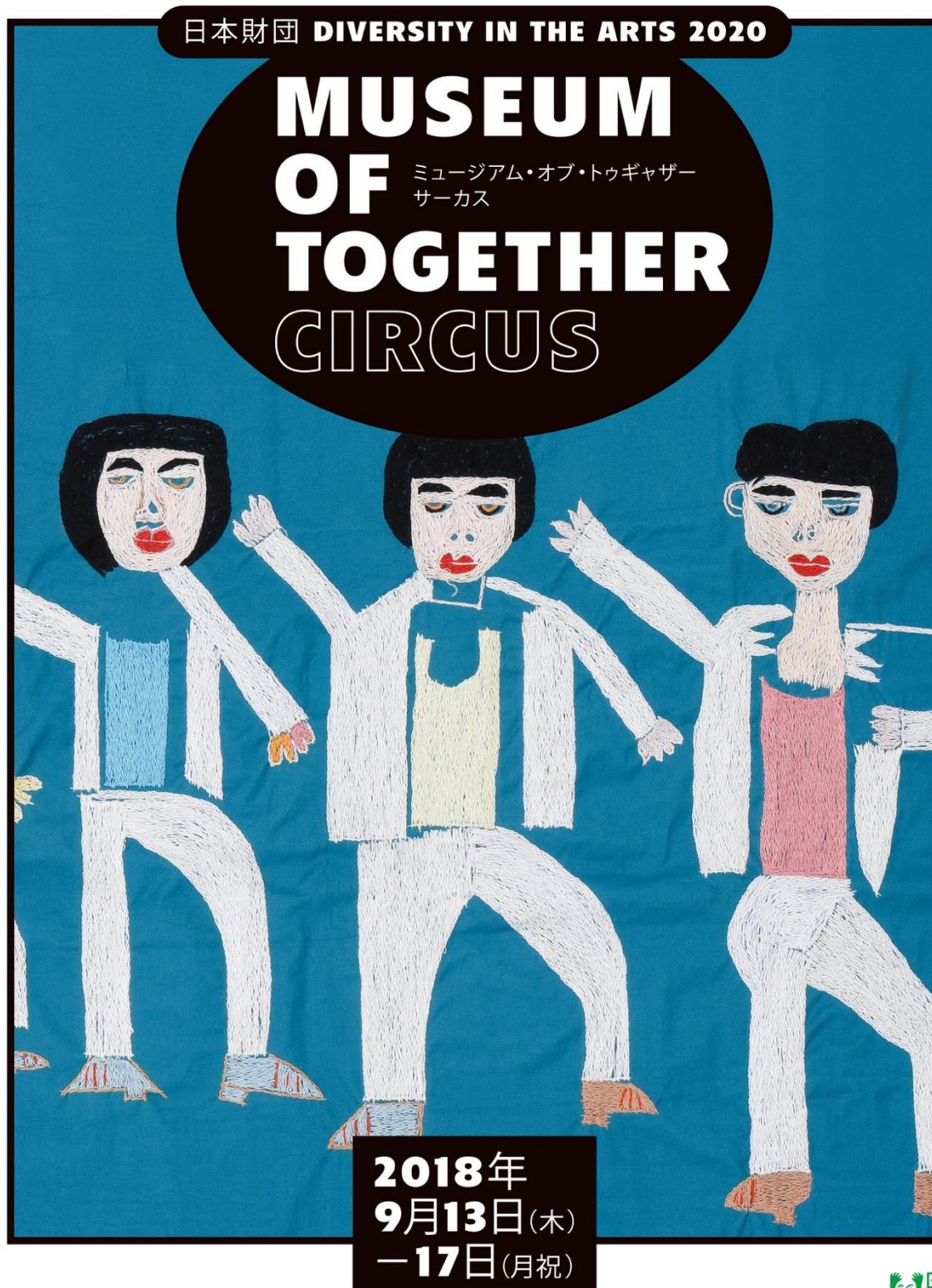


報道関係者各位



11:00～20:00 / 会期中無休 / 入場料無料 渋谷ヒカリエ 8/COURT (〒150-8510 東京都渋谷区渋谷2-21-1 8階)

2018.9.13 (Thu) - 17 (Mon) / Opening Hour: 11:00 - 20:00 / Open every day / Admission Free
Venue: Shibuya Hikarie 8/COURT (8F Shibuya 2-21-1, Shibuya-ku, Tokyo 150-8510)

<https://www.diversity-in-the-arts.jp/exhibition2020/moto-circus>

日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 2020
ミュージアム・オブ・トゥギャザー サーカス
アートへの新しい入り口が開かれる！5日限りのサーカス

■開催概要

会 期： 2018 年 9 月 13 日(木) - 17 日(月/祝)計 5 日間/会期中無休
時 間： 11:00～20:00
会 場： 渋谷ヒカリエ 8/COURT(東京都渋谷区渋谷 2-21-1 渋谷ヒカリエ 8 階)
<http://www.hikarie8.com/home.shtml>
アクセス： 東急東横線・田園都市線、東京メトロ半蔵門線・副都心線「渋谷駅」
15 番出口直結
JR 線、東京メトロ銀座線、京王井の頭線「渋谷駅」と 2F 連絡通路で直結
入場料： 無料
主 催： 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS(ニッポンザイダンドイバーシティ・イン・ジ・アーツ)
特別協力： 渋谷区
後 援： 一般社団法人渋谷未来デザイン、一般財団法人渋谷区観光協会
監 修： NPO 法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/エイト]

■展示作家

川内理香子、小松和子、清水千秋、ピーター・マクドナルド、古谷秀男、竜之介、渡邊義紘



2.清水千秋「三代目 J Soul Brothers」
やまなみ工房所蔵
撮影：木奥恵三



3.渡邊義紘「折り葉の動物たち」
撮影：木奥恵三

■企画関係者

キュレーション：ロジャー・マクドナルド、塩見有子／[AIT/エイト]
会場デザイン：長岡 勉／POINT
施工・デザイン協力：アラキ+ササキアーキテクト
展覧会グラフィック：岡本 健／岡本健デザイン事務所
ラーニング協力：NPO 法人 エイブル・アート・ジャパン

■協力：

社会福祉法人やまなみ会 やまなみ工房、WAITINGROOM、一般財団法人たんぽぽの家、社会福祉法人わたぼうしの会、アトリエ・エー、社会福祉法人大和会 大和高原太陽の家(順不同)

■関連プログラム

会期中、本展展示作家による切り絵の公開制作とトークセッションを実施致します。(※手話通訳/文字通訳あり)

登壇者プロフィールなどの詳しい情報は、日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 2020 ミュージアム・オブ・トゥギャザー サーカス公式ウェブサイトをご覧ください。

【出展作家・渡邊義紘 公開制作】

本展の展示作家である渡邊義紘さんによる切り絵の公開制作。はさみ一つで様々な動物たちを生み出していく姿は圧巻です。作品の制作工程を間近でご覧いただけるこの機会に、ぜひ会場へお越しください。

日 時： 9 月 13 日(木)、14 日(金) 各日 14:00～18:00

会 場： 渋谷ヒカリエ 8/COURT

入 場 料： 無料

【ミュージアム・オブ・トゥギャザー トーク】

複数の切り口からゲストの方々をお招きし、本展関係者と、アートのもつ可能性、多様な社会のあり方について語り合います。また、本展と連携した DIVE DIVERSITY SESSION(ダイブ・ダイバーシティ・セッション)では 3 名のゲストをお迎えします。

昨秋開催した展覧会は、企画段階からラーニング(双方向の学び)とアクセシビリティ(参加の可能性)を企画の軸とし、“アート”、“アーキテクチャー”、“アクセス・アート・プログラム”の 3 つの側面から、立場を越えて議論や検証を重ね、開幕を迎えました。今回もひとつの展覧会づくりの姿を基に、新しいアートを提示する挑戦や、あらゆる場づくり、身近な関係性の再構築など、未来につなぐヒントを一緒に探しましょう。

日 時： 9 月 15 日(土)～17 日(月/祝)

会 場： 渋谷ヒカリエ 8/COURT

入 場 料： 無料/全席自由席

情報保障： 全セッション手話通訳、文字通訳あり

<DIVE DIVERSITY SESSION>とは

SOCIAL INNOVATION WEEK SHIBUYA(主催：日本財団、渋谷区)の一環として行われる、“本質”をテーマに、様々な立場からお招きした有識者による多様な社会の可能性を探求するトークセッション。それぞれの専門分野における「本質的な価値・意味」と向き合うことで、登壇者の日々の活動の根源に迫り、新たな景色を描くために欠かせないトップランナーのアクションとは何かを考えます。渋谷ヒカリエ会場では、本展とのコラボレーションセッションを 3 つ開催。展覧会関係者が聞き手となり 3 名のゲストをお迎えします。

各トークセッション概要

●『DIVE DIVERSITY SESSION 言葉の本質』

日時: 9月15日(土) 14:00~15:10 (定員 60名)

ゲスト: 小野正嗣 / 作家、立教大学文学部教授

出演: ロジャー・マクドナルド、塩見有子 / [AIT/エイト]

芥川賞作家であり、NHK E テレ「日曜美術館」の司会を務める小野正嗣さんを招き、本展のキュレーターと、アートやその人らしさを言葉で伝えることの魅力や醍醐味などを通して、この先に繋がるヒントや可能性について語り合います。

●『建築とメンバーシップ』

日時: 9月15日(土) 15:30~17:00 (定員 60名)

ゲスト: 藤本壮介 / 建築家

出演: 塚本由晴、貝島桃代 / アトリエ・ワン

建築家の藤本壮介さんを招き、アトリエ・ワンの塚本由晴さんと貝島桃代さんと共に、建築の視点から人をとりまく空間の受容性や居場所について考えます。また、建築とさまざまな社会課題との接点について探ることで、デザインや建築に対するヒント、そして可能性について語り合います。

●『アートと寛容性』

日時: 9月15日(土) 17:30~19:00 (定員 60名)

ゲスト: 小澤慶介 / アート代表、インディペンデント・キュレーター

出演: 塩見有子、ロジャー・マクドナルド / [AIT/エイト]

2017年に開催した「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 企画展ミュージアム・オブ・トゥギャザー」を牽引したキュレーターと、2020年開催予定の展覧会に向けてバトンを受け取る小澤慶介さんによるトーク。展覧会をつくる3人が、新たなアートに出会い、それを構築することの課題と実験、考え方や鑑賞について語り合います。

●『DIVE DIVERSITY SESSION 多様性の本質』

日時: 9月16日(日) 14:00~15:10 (定員 60名)

ゲスト: 奥貫薫 / 女優

出演: 赤荻徹 / アトリエ・エー主宰

渋谷区内で2003年から活動する絵の教室 アトリエ・エーには、ダウン症や自閉症の人を中心にいろいろな方が集まり、豊かな時間が流れています。女優 奥貫薫さんも当初からその場に集うひとり。主宰者である赤荻徹さんと共に“アトリエ・エーにある多様性”をスタート地点として、そこから育まれる関係性や創造の可能性について語り合います。

●『作品制作について』

日時: 9月16日(日) 16:00~17:10 (定員 20名)

ゲスト: 渡邊義紘 / 本展展示作家、切り絵作家、渡邊仁子 / 渡邊義紘母

出演: 塩見有子、ロジャー・マクドナルド / [AIT/エイト]

本展の展示作家であり、秀逸な木の葉の動物作品や切り絵作品で国内外に多くのファンを持つ渡邊義紘さん。今回は渡邊さんのお母様もお招きし、作品制作にまつわる様々なエピソードを本展キュレーターが解きほぐします。

●『DIVE DIVERSITY SESSION 参加の本質』

日時: 9月17日(月/祝) 14:00~15:10 (定員 60名)

ゲスト: 近日公開

出演: 柴崎由美子 / NPO 法人エイブル・アート・ジャパン代表理事

近日公開

●『ミュージアム・オブ・トゥギャザーから見たこと』

日時: 9月17日(月/祝) 16:00~17:10 (定員 60名)

ゲスト: 上田昂輝 / 会社員、小寺美卯 / 大学生、ホンジウン / 大学生

出演: 柴崎由美子 / NPO 法人エイブル・アート・ジャパン代表理事

2017年に開催した「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 企画展ミュージアム・オブ・トゥギャザー」で、ボランティアスタッフとして活躍した三人と、本展のラーニングプログラムに協力するエイブル・アート・ジャパンの柴崎由美子さんによるトーク。展覧会を通して得たことや気づき、また、さまざまな立場や世代からみた、ラーニングの展望を語り合います。

■日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 2020 ミュージアム・オブ・トゥギャザー サーカス 公式ウェブサイト

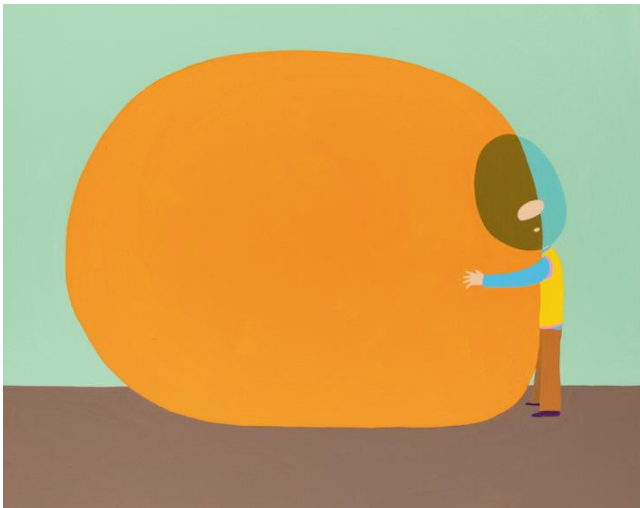
(<https://www.diversity-in-the-arts.jp/exhibition2020/moto-circus>)

制作:萩原俊矢

協力:Bmaps プロジェクト(日本財団 CANPAN プロジェクト/株式会社ミライロ)

バリアフリー共有アプリ「Bmaps(ビーマップ)」と連携しアクセス情報の提供を行います。会場から出た後も楽しめるよう会場周辺の飲食店などの情報も公開します。

■本展のみどころ



4. Peter McDonald 「Orange Egghug」



5. 会場デザインイメージ、作品を顔はめパネルとして展示
(会場デザイン:長岡 勉/POINT、施工・デザイン協力:アラキ+ササキアーキテツ)

アートの中に入ろう！写真を撮って楽しめる参加型のアート展！

会場構成のコンセプトは「サーカス」。カラフルな会場デザインや来場者が展示の一部として参加できる様々なスタイルのユニークな顔はめパネルの展示を予定。子どもから大人まで多くの方々にお楽しみいただける、思わず中に入りたくなるようなワクワク・ドキドキ楽しい空間が広がります。遊び心のあるにぎやかな会場で作品を鑑賞するだけでなく、この会場でしか体感できない思い出も残していただけます。

ハッシュタグを付けた写真を投稿してサーカスを盛り上げよう！

#日本財団 DA2020 #MOTO サーカス



2017 年度ミュージアム・オブ・トゥギャザー 会場風景
撮影：木奥恵三

2017 年度 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 企画展 ミュージアム・オブ・トゥギャザー

日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 企画展「ミュージアム・オブ・トゥギャザー」は、2017 年 10 月、東京のスパイラルガーデンにて、当プロジェクトとして開催した初の企画展です。

障害のある作家や現代美術家、また香取慎吾さんを含む 23 組の作家による作品、アーカイブ資料や模型など約 500 点を展示し、19 日間の会期中に約 4 万人が来場しました。多くの鑑賞者にひらかれた展覧会として、誰でも楽しく、居心地よく過ごせる環境を目指した本展では、キュレーター、建築家、デザイナー、編集者、美術館職員、障害のある方、そして福祉関係者など、領域を超えて様々な立場の人々により企画チームを構成し、コミュニケーションを重ね双方向に学び合いながら、準備を行いました。会場では、さまざまな方のニーズに応じて展覧会やサービスの案内をする総合受付「ウェルカム・ポイント」や、鑑賞中に休憩が必要となる方のために静かに過ごせる部屋「クワイエット・ルーム」、音声を通じて作品を知ることのできる「オーディオ・ディスクリプション」や会場周辺のバリアフリー情報を届けるアプリ「Bmaps(ビーマップ)」を用意。アクセシビリティを配慮した会場づくりにも力を入れ、スロープを設けるなど、会場の既存の空間を使いつつ、アクセシブルな展示を実現させ、さまざまな視点や感覚で展覧会を楽しめる工夫をこらしました。



日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS とは

誰もが参加できるインクルーシブな社会の実現を目指し、日本財団は障害者に関わる事業に多角的に取り組んでいます。そのひとつである「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS (ニッポンザイダンダイバーシティ・イン・ジ・アーツ)」は、アートを通して多様性の意義と価値を広く伝え、越境を導くため、多くの人々が参加者となり、新たな担い手や企てが生まれるよう、東京オリンピック、パラリンピックが開催される 2020 年に続く未来に向けて展開するプロジェクトです。

■広報用画像

画像 No.1～5 を広報用にご提供いたします。

ご希望の方は使用条件をお読みの上、下記までお問い合わせください。

MAIL: moto@diversity-in-the-arts.jp

＜使用条件＞

※広報用画像の掲載には各画像のキャプションとクレジットの明記が必要です。別途資料をお送りします。

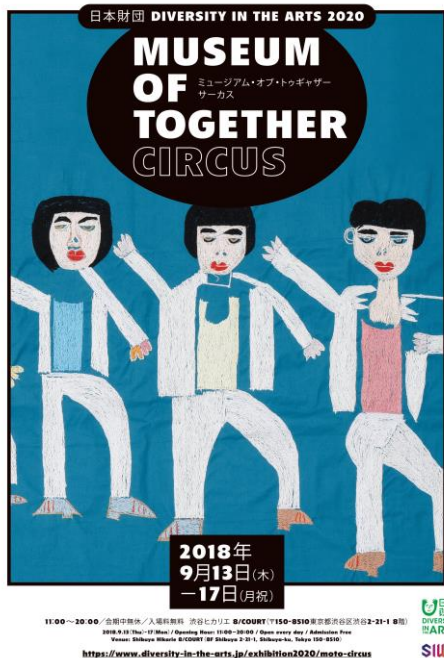
※作品画像のトリミングはご遠慮ください。作品が切れたりキャプション等の文字が画像に被らないよう、レイアウトにはご配慮ください。

※情報確認のため、お手数ですが校正紙をお送り頂きますようお願いいたします。

※アーカイヴのため、後日、掲載誌(紙)、URL、番組収録の DVD・CD などの送付をお願いいたします。

以上、ご理解・ご協力のほど何卒よろしくお願いいたします。

1



展覧会メインビジュアル
(展覧会グラフィック: 岡本 健/岡本健デザイン事務所)

2



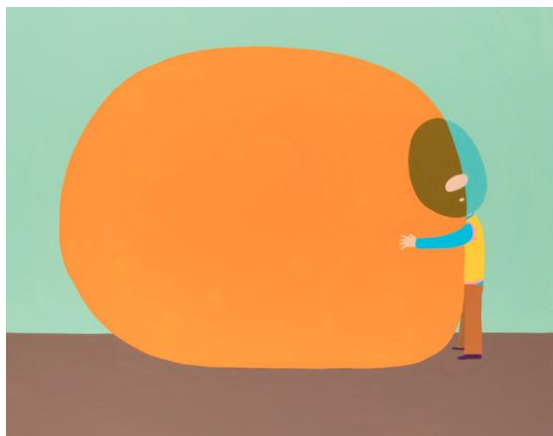
清水千秋「三代目 J Soul Brothers」
やまなみ工房所蔵
撮影: 木奥恵三

3



渡邊義紘「折り葉の動物たち」
撮影: 木奥恵三

4



Peter McDonald「Orange Egghug」

5



会場デザインイメージ、作品を顔はめパネルとして展示
(会場デザイン: 長岡 勉/POINT、施工・デザイン協力: アラキ+ササキアーキテクト)